

「コロナ禍の若き

アスリートの
活躍に思う」

開催に賛否両論があるなか、東京オリンピック・パラリンピックがさまざまな制約のもとに実施され、無事終えることができませんでした。厳しい環境下で参加された世界のアスリートや大会運営をサポートされた多くの関係者の皆さまに心から敬意を表したいと思います。

結果は、滋賀県出身選手の活躍もあり、日本のメダル獲得数がオリンピックは過去最多、パラリンピックも過去2番目の記録となりました。新競技としてオリンピックでは空手とスケートボード、スポーツクライミング、サーフィンの4競技、パラリンピックではバドミントンとテコンドーが加わり、今後競技人口が増えそうな個人競技で日本の若手選手の活躍が目立ちました。

また、プレー後のインタビューでは「持てる力を出し切った」という声が多く聞かれました。日々の「苦しい地道な練習の積み重ね」と試合での「最後まで諦めない気持ち」で、最高のパフォーマンスを發揮したからこそ言えるのだと思います。さらには、若きアスリートが表彰式後、「後悔をしないほど練習した」と力強く語った言葉には、「参った」の一言です。勝敗の如何にかかわらず、清々しさを感じ、スポーツ本来の良さを垣間見た気がしました。同時に、若者のプレッシャーを超えた意志の強さと結果を素直に受け止める冷静さが印象的でした。そして、個人競技で自らの結果にこだわりなが

らもチームとして互いに励まし、喜びを分かち合うことの尊さを感じた場面も多々ありました。

一方、プロ野球でも今年入団した新人選手の活躍が顕著です。ある野球評論家がその理由を「彼らはこれまで一生懸命練習してきたが、コロナ禍でそのパフォーマンスを表現する場が無かった。それでも我慢強く練習し、精神的に大変たくましい世代。まさにコロナ世代の活躍」と評されました。普段は脚光を浴びることなく、秘めた思いをたゆまぬ努力につなげて結果を出した五輪の若きメダリストたちと相通じる状況だと思えます。

スポーツ界での若手の活躍を考えると、企業経営においても学ぶことが多々あると感じました。弊行でも、自己実現の喜びが味わえることに重きを置く世代が増えていきます。また目標の達成感において、個々の力を存分に發揮しながらも、むしろチームとしての評価を得て達成感を分かち合いたいという気持ちの表れは、最近の特徴かもしれません。

「日々の地道な努力」と「目標に対し最後まで諦めない気持ち」の大切さを全員で共有しながら、個々の自己実現を見える化し、サポート体制を充実して、適切な評価制度で報いる。コロナ禍の今、若い力を信じ、その力を發揮できる環境づくりの大切さを再認識しました。そして、「人を大切にする企業風土の醸成」に決意を新たにしたい次第です。